

# 母を訪ねて3千年

## ねらい

文字を読む楽しさを知っている子どもはどれくらいいるのでしょうか。読めても書けない子どもたちも増えてきています。漢字は日本の文化の基盤です。漢字のルーツを探りながら漢字にこめられた古人の思いを推測しましょう。

## 方法\*

① 学習のねらいを話す。

《例》

万葉集の中に「恋水」という言葉があります。さて何と読ませたのでしょうか？

そうです。「なみだ」です。平仮名のなかったころのこと、人々は漢字を駆使して何とか思いを伝えようと工夫しました。「山上復有山」＝「出る」というようなおもしろいものもあります。「姑」などは見ているだけで腹が立ってくるし、「娘」などもうれしいようないやうなうれしくないような…。

今日はこのような漢字の成り立ちを解明して、物事を古人はどのようにみていたのかを考えて楽しんでみましょう。

② ワークシートに書かれた「漢字のルーツ（母）をさがす」ゲームを行う。

育	育	生まれたばかりの赤ちゃんに肉がついてきたよ
反	𠂔	かばうように曲げた手をあわせる仲間
保	保	赤ん坊を大事にくるんで守る人
反	𠂔	布や薄い板を手で押せばそり返ったり跳ね返ったり
共	共	両手で物を持って支えるのが役目

③ 現在使っている漢字は知らせずに、成り立ちともとの字から類推する。

④ 解答を紹介し感想を交流する。


## \*効用\*







「なるほど！この字はこんな意味があったのか」と発見のアハ体験ができます。対象に応じた漢字の選定に工夫が必要です。今使っている漢字が新鮮に見えるかも知れません。

# 母を訪ねて3千年

\* まず、漢字の成り立ちと漢字の原型となった絵文字を線でむすんでみましょう。次に、( ) の中に現在使っている漢字を書き入れてみましょう。

《例》

 → 生まれたばかりの赤ちゃんに肉がついてきたよ  
( 育 )

- 1  ・ ・ かばうように曲げた手をあわせる仲間  
( )
- 2  ・ ・ 赤ん坊を大事にくるんで守る人  
( )
- 3  ・ ・ 糸がもつれてなかなか分けられないように心も思いも  
乱れる ( )
- 4  ・ ・ 両手で物を持って支えるのが役目  
( )
- 5  ・ ・ 矛を持って戦いに行く足をちょっととどめたい  
( )
- 6  ・ ・ 子をちぶさに向けておっぱいを飲ませる様子  
( )